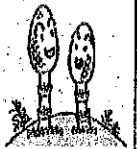


# 上宮津公民館だより

第55号  
平成23年  
3月18日



## 上宮津ってどんなまち？

公民館長 智原芳明

ようやく春めいてまいりました。今冬は三十年ぶりの大雪でした。大晦日の朝から降り始め、夕方には警報が出るまでになり、年明けは一日になって初めての太陽が顔をみせるまで、実に一か月もの長い間雪に閉ざされた日々が続きました。正月を挟み高速道路や鉄道にも乱れが出るなど私生活に大きな影響がでました。

一方、大江山スキー場は近年になく豊富な積雪に恵まれて、期間中一人近いお客様でにぎわいました。二月一日から上宮津地域の足となる「丹海バス上宮津線」が全区間二〇〇円の均一料金となり、生活に根ざしたルートに衣替えして運行が始まりました。

京都縦貫自動車道は、宮津・天橋立インターから与謝・天橋立インター間が完成し、三月二日通行が可能になりました。日と同じくして、鉄道においても「特急はしだて」が

新型車両で一部運行が始まっています。

河川改修においては、台風二三号で大きな被害を受けた大手川の「河川激甚災害対策特別緊急事業」が終了し、災害と環境に配慮した広くて美しい川に生まれ変わりました。

このように、公共部門のインフラ整備による環境の変化には、目を見張るものがあり、元気な上宮津への基盤が出来上がってきました。

この上に立って、将来の上宮津をどう維持して行くのかとの目的から実施しているのが今回地域会議のアンケートです。皆様の思いや考えを集約し、これから上宮津が歩むべき方向を求める作業が始まっています。

ところで皆さんは、「上宮津ゆうたらどんなところだいな？」と尋ねられた時にどうお答えになりますか。正直、私には答えることが出来ませんでした。

普段は「美しい」「おいしい」「楽しい」と何気なく判断をしながら生活しているのですが、それをまとめて

「まちとしての上宮津」を言い表すのはとても難しいものです。

上宮津の「こんなところが良いところや」「こんななんだつたらええけど」「こんなことが困る」という風に部分で見ると比較的一人ひとりの意見が出やすくなります。

一人では出せなかった答えも、こんな風にする共通認識となり、引いては全体的な結論や方向性を導き出すことが可能となるのではないのでしょうか。

この「皆で答えを導き出す事」が今の時期になって最も大切にされようとしています。

ともすれば、これまでの地域における要望や事業は、行政や補助金に依存することが一般的でしたが、ここにきてワークショップ形式や地域住民の同意や事業参画型へと一部移行が見られます。

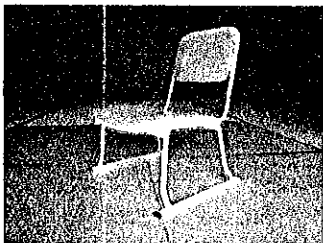
上宮津公民館は自治連合会をはじめ運営審議会を構成する団体の皆様やサークル活動にと多くの皆様にご利用いただいています。高齢化と少子化など全く感じさせない活発な活動がなされています。「生涯現役」の時代にふさわしい「時差のない公民館活動」に答えていかなければならないと思っています。

「かみやづ」のお宝や景色などを、公民館二階に展示室を設けて、主に写真で紹介しています。上宮津21夢会議 杉山・大江山部会の美しい写真が多く展示してあります。

上宮津財産区管理会様には座椅子を五十三脚寄贈していただきました。しびれや痛さを感じないでゆつくりと、会議や欲談がしていただけると幸いです。

また昨年は選挙の多かつた年で、公民館は構造上段差が多くあり、高齢者の皆様には危険性を伴いますので、その箇所に手すりをつけました。棄権しないで安心して投票にも来ていただけます。

今年度を終わるにあたって我がまち「かみやづ」の公民館活動を支えていただきました各委員の皆様、行事に参加いただきました皆様は心より感謝申し上げます。



みんなで里力をたかめよう

上宮津地域会議会長

上宮津自治連会長 細見節夫

皆さんに今、アンケートをご協力いただいています。昨年から上宮津地区では、京都府の里力再生事業の支援を受けて新しい地域づくりに取り組んでおり、その一環として地域住民のアンケート調査を実施したところです。

上宮津地区も人口の減少と少子高齢化が進み、十年後人口は約二百名弱減少して千百名になり、住民の二人に一人は六十五歳以上の高齢者となります。

そして高齢者だけの世帯と独り暮らしの世帯が増え、空き家も相当数増えることが明らかになってきました。ちなみに我が国の人口も五十年後は約九千五百万人と今より三千三百万人減少するといわれています。

今後の私達を取り巻く社会の環境は、人口減少と高齢社会の到来と我が国経済の成熟化によって今まで経験したことのない状況に変化していくことが予測できます。

農村地域では若者が少なく高齢者が中心となって地域を支えていかなければならない状況となります。

また地方経済が疲弊する一方、高齢化に対応する社会保障費が嵩み公助の分野が狭まり、自助と共助の分野が増えていかざるを得ない状況に立ち至ることが見えてきます。こうした中で地方において自立の地域は自分で守っていく自立の地域づくりが新しい社会の波として動きつつあります。

里力再生の取り組みもこうした背景を踏まえたものであり、人口減少と少子高齢化の新しい時代変化に適應できる地域とするための地域おこしの取り組みです。

再生計画の方向付けはこれからですが、これから進行する社会の変化は、いままでの常識や流儀では対応が難しいのではと考えています。

新しい地域づくりは、高齢者が生涯現役で社会を支える主役となって生き活きと頑張れる地域社会にするために既存社会の仕組みを見直していくことから始まると考えています。

こうした中で宮津市は、本年三月宮津ビジョン二〇一一を策定し、各地区においても地域づくり計画の策定を求めています。

私たちは、平成十四年に「人も地域も共に輝くふるさとをめざして」と題する上宮津地区振興計画を作り出した。

この計画を推進するため夢会議や自治会をはじめ地区のそれぞれの構成組織で努力してきたところですが農林業の振興や若い人の定住、後継者づくり大江山の観光開発などの地域おこしの基本的な課題は、一層深刻な状況になっています。

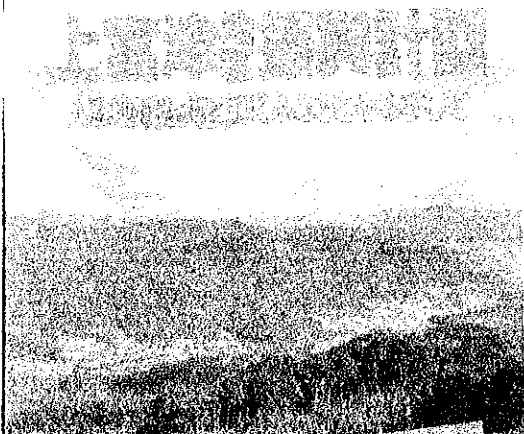
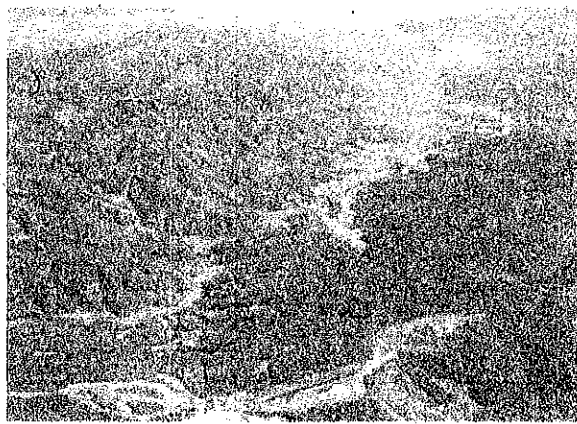
その上に立って上宮津地域会議では、今年一年をかけて上宮津地区地域づくり計画を策定することになっています。

この計画は、現在の振興計画の評価の上に立ち、高齢者が生涯現役で地域社会の中心となる状況を念頭において組み立てていきたいと考えています。

現在地域会議において計画の素案づくりを進めており、素案がまとまれば、四月以降上宮津地区の各組織および地域住民に組織的な討議をお願いしていくことにしています。

アンケートの分析を踏まえるとともに、地域の皆様のいろいろな意見や肉付けを得て今年の年末までには上宮津地区の地域づくり計画をまとめたいと考えています。

どうかみなさん自分たちの住む地域をよりよいものにしていくために力を貸してください。



### 合同会社 大江山スキー観光を

今後ともよろしくお願ひ

致します。

代表社員 岡 伸侍

大江山スキー観光協会を、地元の皆様にご理解頂き、合同会社大江山スキー観光として法人化し再スタートしてから、約一年六ヶ月になりました。

スキー場は昨シーズン七日間、利用客一三〇〇人、今シーズンは、一月二日から二月二四日迄の五四日間の連続営業で九九〇〇人のお客様にご利用頂きました。

大江山スキー場は昭和二八年（一九五三年）に開設され、今シーズン迄五八年間営業を続けてきた所ですが、その間雪に恵まれず一日しか営業ができなかったり、平成二六年の台風二三号の被害で府道綾部大江宮津線が岩戸側、中の茶屋側の道路が寸断され、スキー場が孤立状態となり営業が出来なかつたことは記憶に新しい所です。

過去三五年のデータによりますと、五〇日以上の営業は、今シーズンを入れて一二回、今迄の営業日数の最高は昭和五八年の七八日間でした。

今シーズンの様に途中休まず営業できたのは、最近にないことでしたが、

スキー離れの影響で、特に平日の利用客は十五人程度、土日祭日で四〇〇人程という結果でした。

過去に大江山スキー場にたずさわつて来られた方々のご努力に敬意を払うとともに感謝申し上げる次第です。

今後は冬季のスキー場のみの経営から、四季を通しての多面的な経営に変換していく必要性を強く感じている所です。

上宮津地域会議又地区の皆様方のお知恵もお借りしながら、執行委員一丸となって努力していく所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ致します。



### 民生児童委員常務になつて

大塩京子

昨年十二月一日に民生児童委員の一斉改選がありました。幸い上宮津地区は六名がそのまま続投になりました。その中で役割の変更をする事になり、私が常務をさせて頂くことになりました。

民生児童委員になつて四期目、十年目に突入、世間では十年選手といえはベテランの域に入りますが、まだまだ知らないことが多く、皆さんに助けて頂いております。

初めての常務会では、他の五名のメンバーへの報告をしっかり伝達しなければと、今でも緊張をしています。

上宮津地域への関わりも自分の担当の地域だけでなく全体となり責任の大きさを痛感しています。

また、上宮津地区地域づくり計画が昨年より始まり、私も一員として参加していますが、今まで委員として携わっていたことより深く関わるようになりました。

上宮津は旧村と団地等異なつた環境が共存する地域です。その中でそれぞれ地域の力が、これからの

上宮津をいかに活性化し、みんなが

安心して暮らせるか真剣に色々な活動に取り組んでおられる姿を目にする機会が多くなり、少しでも役に立てることを探し行動を起こしています。

民生児童委員常務として、自治会、公民館、市、社会福祉協議会等の橋渡し。そして、福祉に関する相談、支援など多岐多用でありますが、自分の出来ることに挑戦させて頂きます。

### お世話になります

#### 民生児童委員さん

- 小田 赤田光弘氏
- 小田 久古恭子氏
- 喜多 関野掲司氏
- 今福 杉田喜美代氏
- 天神 酒井勝明氏
- 鳥が尾 大塩京子氏

# おじやましましす

小田 杉谷馨様宅を訪ねて

例年になく大雪で、屋根に深い雪が残る中を、ミップルで版画展を終えられたばかりの杉谷馨さんを私と公民館主事と共に伺いました。

杉谷さんと言えば、敬老会、運動会、駅伝、バトミントン、それに上宮津祭りにと得意のパフォーマンスで平石の「かおさん」で知らない人は無いと思いますが、今日お邪魔したのは皆様の余りご存じでない版画家としての一面をお聞きに伺いました。

上宮津農業文化祭の作品展では、毎年版画を出していただいておりますがとうとうミップルでの個展の成功おめでとうございました。

力作揃いの素晴らしい作品で期間が延長になるほど大盛況だったと聞いています。

「十二月三十日から二月三日まで長いことさせてもらいました。

同じ作品ばかりでは変化がないので、途中で作品を入れ替えたりするのに結構苦労しました。」

そもそも版画を始めようと思われたいきつけを尋ねましたところ、

「宮津高等学校伊根分校へ通うようになってから、秋の学校祭に職員として何かを出さんなんことになって、悩んだあげく決めたのが版画で、それからずっと文化祭に出展してきたのが今日になっている」

長い間にはいろんなエピソードもお有りではないですか。には、

「ようけあるなあ。なんせ何も分からんもんが独学で始めたもんやから・・・中でも・・・今となっては笑い話やけど。ちように宮津高校に転勤したばかりの時に、彫り上がったのを刷る時に、普通は紙の上に置くのが当たり前やけど、分からんもんの強みやなあ、美術室で紙を下にして、板を乗せ力いっぱい手で押さえたり、大きな金槌でガンガンたたいたりしたら・・・何をしているんですか・・・びっくりして、先生が飛んで来なつたことがあつたしなあ。それに、バレンいうて竹の皮にせんべいを包んだようなもんの存在も知つたんや(笑)今思えば、始めてから十七、八年はほんまに自己流だったなあ」

作品を見せて頂いた時「かおさん」の人柄と重なって見えたんですが、

「だれでも心に思ったり、心に流れるものは一緒だと思う。ただそれを何で伝えるか、どうやって伝えるかだ。僕の場合は版画で表現しているだけのことかな。」

個展会場に有名な版画家の先生が来られたと聞いていますが。

「渡辺淳さん云うて、かの日展に連続八回も入選しとんなる凄人な人が来とくれました。渡辺さんは少年期に山で炭焼きをしながら独学で絵を作つてこられたんです。ぼくも若い頃山で炭焼きをしとつた頃があつたもんで、お互い共通するものがあつて、現在も交流が続いとります。」

「あんたは、ここで生まれて来てよかつた。師匠がなくて良かった」とも言われたとおっしゃっています。

意味深い先生の言葉の中には「かおさん」の素朴さと土臭さをモチーフにした作品へのエールが秘められていると感じました。

まだまだ興味深いお話をお聞きしたいところですが、これからの創作に精進されますことを願って帰路に着きました。

(公民館 智原記)



今日まで

ありがとうございます

善光石油 車田公和

昭和四十七年十一月二十六日に開店させて頂きましたが、その前に勤めていた会社では、そんなにスタンドに依る経験はありませんでした。ただ営業を担当していただけでしたが、何か給油所というものに夢を感じて深くも考えずにやりかけました。幸い事務という協力者にも恵まれて順風の船出は出来ました。

しかし、そう甘くは行きませんでした。まさに大風に見舞われました。四十九年だったと思いますが、第一次オイルショックでした。何もかも品物がなくなり、値上がりしました。当然石油類は絶望的な品不足でした。その頃善光に出入りしていた関係業者がいろんな情報をくれて「今どこで昨年の枠が余ったスタンドがどこどこにある」など・・・その情報を頼りに姫路の方面にまで夜を徹して仕入れに走り、地元のお客様には他の店ほど迷惑をかける事無く通り過す事が出来たのはラッキーでもありました。しかし、次に困ったのが事務をやって頂いていた方の病気に依る退社でした。すぐに代わりの人がある訳でも

無く、とめえず自分で電卓をたたいて徹夜を続けながら三ヶ月やりましたが本当に体が参ってしまった、そこで思い切って宮津地方ではかなり早くコンピュータを取り入れることにしました。これは今でも英断だったな、と思っております。

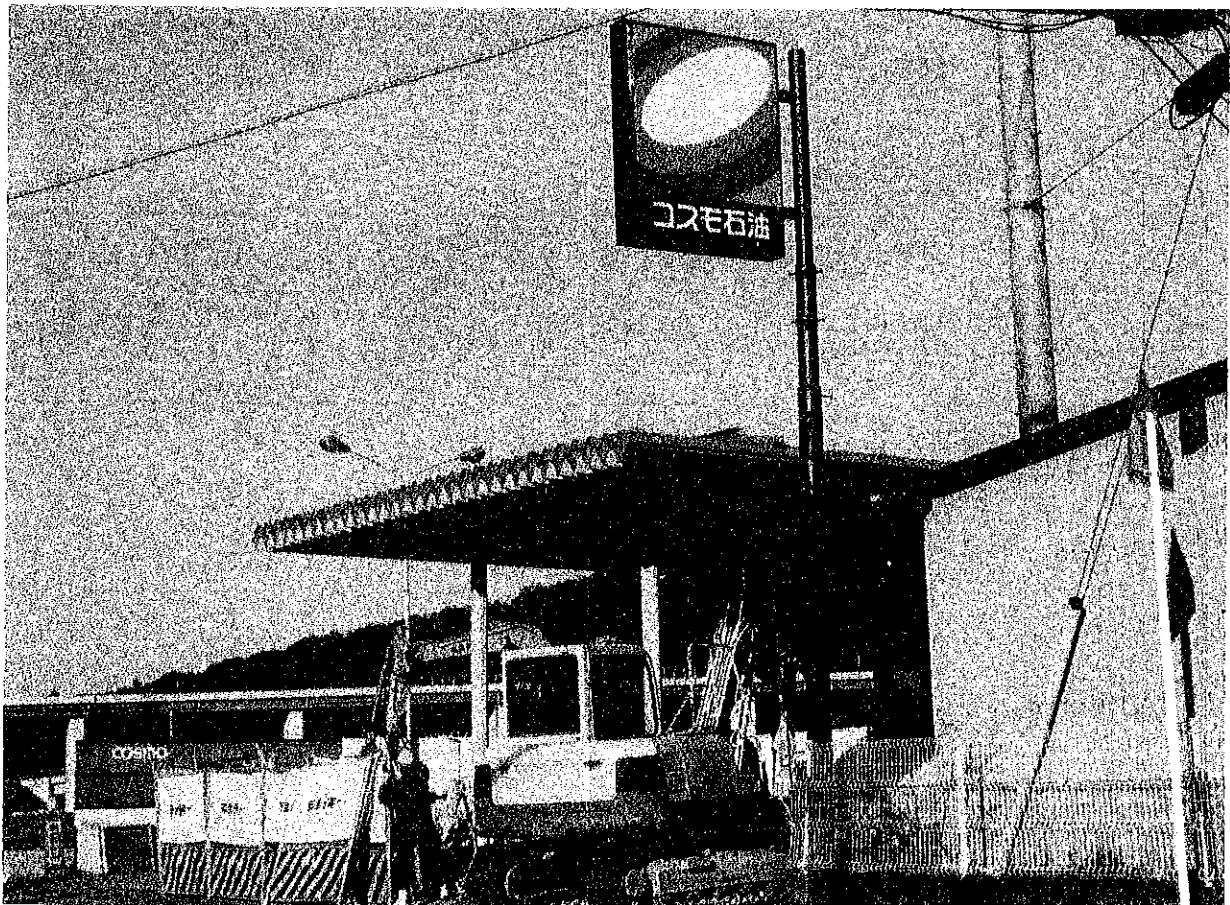
人生山あり谷ありと申しますが、私には谷ばかりだったような気がします。

しかし地区の皆様方には本当に温かく利用して頂き約四十年が過ぎました。

・・・が、又々もつとすごい谷底が迫って参りました。それは四十年を過ぎた地下タンクには内面をFRPでコートしなくてはならないことでした。これをするには、一基が二〇〇万ほどかかります。私のところは四基ありますので八〇〇万程かかります。おまけに又コンピュータを全面的に替えなければならぬ。これに三〇〇万ほど・・・と、まさに矢尽き刃折れの感になりました。

当然心残りが無い訳でもありませんが、「四十年やったからもうよいか。体力もなくなつたし！」と区切りをつける事に致しました。半端な人間がここまで続けて来られ

たのは地区の「様のご厚情以外に 何もありません。 今後は心より感謝をしながら 百姓をして地区に報恩出来ることとがあればと考えております。 心からありがとうございます。



### ○●「囲碁」●○に親しむ

粉川 宗久

今年の大会は一九名もの多数の参加者があり、にぎやかに行われました。公民館からお茶やお菓子を準備していただき、午前九時から午後五時頃まで楽しみました。

参加者の梅田忠男さん、宮本敏夫さんにも進行を手伝っていただき盛況裡に終了しました。

囲碁は、「手談」と言われています。黒と白が交互に打ち合いますが、「私はこう打ちます。白さんどうしますか。」

「黒さん、その手には参りました。私は別の所に打ちます。」

と、ことばは交わさなくとも意思を伝え合うのです。初対面で対戦しても、一局打てば友達になっています。

私達アマチュアには、囲碁の良さは勝敗ではなく打ち切った後の満足感です。マラソン競技と同じです。頭を使いますが、算数とは違います。

「自分はここに打ちたい。」との直感を大切にします。バランス感覚やひらめきが大切です。

良い絵画や写真を見て感動するよりに良い手を打つと気持ちがよくなくなります。囲碁は生涯の良き友です。老化防止にも良いです

### もう一度敬老会

喜多のねえさん

二十数年前の敬老会で「十人で踊ったらしい」「あの人が一緒だった」「あんなスカートで踊った」...

そう言われると、なんのグループだったか思い出せないが踊ったような気がしてくる。

その時の写真を見せてもらった。みんなわかあ〜い。おまけに・



毎月第二土曜日の午後、地区公民館で囲碁を楽しんでいます。初めての方も一度お越し下さい。お待ちしております。

かわいいーやはり思い出は多い方がいい。もともと嫌いなことじゃない。「じゃもう一回やるか！」と九人が揃った。メンバーで元保育所の先生に、以前の職場で踊りを習ってきたもらった。

園児のやることだ。さすがに覚えられるだろう。人集め、連絡、衣装の手配、踊りのアイデア、わいわいやっているうちにどうにか格好がついてきた。

敬老会当日の反応が心配だったが、赤や黄色のキレイな衣装やレイ、明るくてかわいらしい歌や踊りのおかげで楽しんでもらえたように思え、ちよつと安心した。

私たちが最後の出番だったが、幕が閉まらずモタモタしていたら、ほかの出演者の方たちが後方に並んで下さったので、みんなで勝手に私達の踊りでアンコールやっちゃいました。

あとの上宮津音頭の総踊りも大いに盛り上がった。

終了後、外で記念写真を撮ってもらった。アドレナリンが出た直後なので皆輝くような笑顔!

あと数年もすれば「若かったね」「輝いているね」と見るころだろう。いろんな人の協力のおかげで、また一つ楽しい思い出が増えました。ありがとうございます。





### 素晴らしい眺望

### 冬の大江山・杉山カントリースキーツアー

宮津エコツーリズム推進協議会

上宮津・杉山ガイド部会

智原保孝

今年の冬は例年にならない大雪となりました。

今回のスキーツアーは宮津市産業振興室とエコツーリズム上宮津・杉山ガイド部会として杉山・大江山クロスカントリーを企画、募集しました。

その結果、奈良・大阪・京都からの参加者二十六名と、スタッフ八名の総勢三十四名で実施しました。

実施をするにあたって、いかにお客様に満足して頂けるか、上宮津の歴史の街、雪の杉山を楽しんでいただけか幾度なく部会として話し合い、検討をしてきました。当日は幸いにも天候に恵まれました。

参加者のうち過半数の方は、カントリースキーは初めてであり、いざ茶屋ヶ成を目ざして杉山林道に入るなり、七転び八起き、でした。これも経験と「ワイワイ・ガヤガヤ」。

そのうちにスキーにも慣れ、景色を見る余裕も出てきました。

茶屋ヶ成に着くなり、一瞬に宮津湾・天の橋立が一望出来、「素晴らしい・美しい」皆さんの声を聞

くことができ、いままでの苦勞が吹っ飛んだ気持ちになりました。

茶屋ヶ成ではチーズボンデュで空腹を満たし満腹された様子でした。

計画の最終目的地、宮津展望所に向け、いざ出発。

花の道では植物の芽やウサギ、鹿等の足跡や野鳥の声、上宮津谷の雪景色や杉山と楽しみながら目的地に到着。

この場所で見える天の橋立・宮津湾や上宮津谷の雪景色は一段と『美しい』の一言です。

帰路は来た道を帰るコースで、茶屋ヶ成から普甲山スキー場の頂上をめざして悪戦苦闘しながらの登りに挑戦、そこからは、一路スキーでレストハウス目掛けて滑降。食堂では今回のツアーのための特別メニューとして『鬼っこ汁』と『炊き込みご飯』それに『地元野菜料理』のもてなしに皆さん大満足の様子でした。

最後に皆さんの感想は、すべての方が「また来たい」「四季を通じて来てみたい」と高い評価をいただきました。

